

# 5

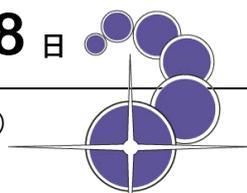
CREATIVE

学 年 だ よ り

第9号 令和2年5月18日

県立村上中等教育学校 (15期生)

●13日のふりかえりを活かした生活をしよう。



Keep Distance

はじめの時期は10時間とか、きちんと取り組んでいたが、次第に短くなってしまった。

すべきことをまずはリスト化。逆算で計画を。

課題ははやく終わらせることができたけど、自学が思ったとおりでできていない。

課題終了は素晴らしい。テーマを決めて自学を。

将来ことについて調べておきたい。英語の構文を理解したい。

強化キャンペーンを自分で設定するのもよい。

英語の課題が想定時間より大幅にかかってしまったが、先生の戦略がわかったので、頑張りました。

各課題のねらい、担当者の思い、出題者の意図を読み取ることが大事。しかも、有効な方法だ。

チャートとナビゲーターを1周する！

具体的でよいです。

家族のためにお昼をつくる手伝いをしていた。学習も自分なりに取り組めた。

手伝いをしている人が多くて感心。楽器を始めたなんていう声もあり！ 素敵です。

昼夜が逆転し、改善すべき点が多い。

失敗は生かせばプラスになる。繰り返しは×。

勉強を始める時間が統一されてなかった。

歯磨きのように習慣化を！

進路の方向性が不明確なので、残りの休校を使って、調べる時間をとりたい。

可能性は、とにかくメモ！

## 分散登校が13日にありました

●アドバイス1 自分の知っている表現でよいのかどうか、判断に困ったら、Google！

質問1 go for a walk は take a walk でもよい？

回答1 入試の英作文や実用英語では自分が知っている語彙で表現しなくてははいけません。ただ模範解答の語句ではなく、自分の知っている語句でもよいのか判断に困ることがあります。そんな時、私は、Google を使って判断しています。“ ”をつけた状態で、表現を検索してみるのです。すると、go for a walk は 32,100,000 件、take a walk は 110,000,000 件とありました (5月13日現在)。ここから take a walk のほうがよく使われている様子がわかります。実際、辞書や参考書を作成する学者も Google をこのように活用し、編集しています。

●アドバイス2 単語のニュアンスの違いを知りたい時は英英辞典を！

質問2 resolve と solve の違いがわかりません。

回答2 正直、私にとって英語は母語でないため即答できません。単語の違いを知りたいときは電子辞書の英英辞典を参照します。例えば high と tall を引くと、  
high = measuring along distance from the bottom to the top  
tall = having a greater than average height

《出典：LDCE 6th》

とあり、簡潔な英語で書かれてあり、違いがわかります。また、resolve をひくと、solve とあるため、この場合は同意と考えてよいでしょう。同様に rob や deprive もほぼ同じ意味であることがわかります。ここでさらにアドバイス1にある Google 検索すると完璧です。語彙力がつけばつくほど、この様な質問が増えてきます。(裏面に続く)

分散  
登校

質問カード  
フィードバック

英語編

13日に行われた質問教室。事前に課題としていた質問カード記入によると5教科で399本の質問が出ました。主なものを取り上げ、今後、どんな点を意識し、学習すべきかアドバイスを掲載します。

第1回は英語。

102本の質問を7つの観点からまとめました。次回、国語と数学について掲載する予定です。

●アドバイス3 文法は、選択肢にケチをつける + 「型」を自分のものとする!

質問3 The climate of Hawaii is wilder than ( ) of Alaska. は、which はだめですか。

回答3 文法問題についての質問ですね。おそらく関係代名詞の which を意識するための質問かと思えます。まず、関係代名詞は名詞を説明する時に使うものですから、空欄の目に名詞が必要です。しかしこの問題ではそうでないため、which は不適だと判断できます。このようにいろいろな言語の現象に興味を持つことは語学には大切です。日頃の学習で、選択肢が用意されている場合は、適切でない選択肢にケチをつけ自分で説明できるように練習しましょう。一方、参考書『構文150』は英語の構文、つまり「型」が掲載されています。「the 名詞 of は that of で受ける」とまずを理解し、その構文を使って自分で英文を作る練習をしましょう。

●アドバイス4 解答の訳が納得できない場合は、一旦、頭の中でイメージをつくる!

質問4 解答の日本語訳がなぜそうなるのかわかりません。

回答4 語学は、日本語との格闘でもあります。たとえば what the world is は参考書には「今の世界」と書いてありますが、人の数だけ和訳があるといっても過言ではありません。人によっては「世界の現状」と訳す人もいます。そんな時は、参考書の訳と直訳をイメージし、いったん頭の中でビジュアルを作ります。それから今度は自分の知っている日本語で表現をします。



この方法を習慣づけると、次の文の command がなぜ次のような意味になるのかが理解できると思います。

The captain commanded his men to retreat.  
(大佐は部下に退却を命じた) 《Genius 英和4》  
This hill commands a fine view.  
(この丘からはよい景色が見える)

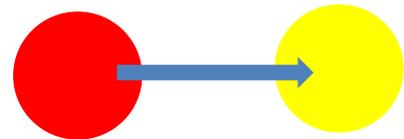
ちなみに外国語を学習すると、母語も上達します。



●アドバイス5 常に因果関係を意識しよう!

質問5 次の並べ替えができません。  
(robbed, the shock, speech, of, her, her)

回答5 英語は因果関係を厳密に表現します。これは文と文の関係もそうですし、単語レベルでもそうです。こんな時は選択肢を見て、因果関係を見極めましょう。rob A of B は、「AからBを奪う」と参考書には書いてありますが、これを Srob A of B とすると、「SはAからBを奪う」となり、Sが「因」にあたります。それから、次に選択肢を見ると、shock, speech とあることから、「ショックのあまり言葉を失う」、つまり「ショック」が「因」だと判断します。以上より、The shock robbed her of her speech. が正解だと考えます。



●アドバイス6 前置詞は3パターン学習!

質問6 of がどこに入るかわかりません。

回答6 例えば、参考書『Vintage』のさくいんを見て、全体像をとらえるとよいです。特に前置詞の学習ポイントは3つ。①熟語の語尾を意識して覚える(例: be ashamed of, be proud of など。427ページあたりを参考にする) ②どんな動詞とペアになるかを意識して覚える(例えば、clear A of B, rob A of B など。273ページあたりを参考にする) 「略奪」を示す動詞と共存することが多いことがわかります。また ③ Vintage の172ページを参照すると、前置詞が鳥瞰できます。

●アドバイス7 語学は「速」と「精」を意識しよう!

質問7 リスニングはひたすら聞くのがよいですか。

回答7 リスニングは、音を拾い、頭の中で速読をする行為です。つまり聞く練習と読む練習の2つが必要です。その際、それぞれに「速」「精」の2つの要素を取り入れるようにします。①「速読」=こまかいことを気にせず、大量の情報の中から必要なものを取り出す読み方です。授業で予習が課されていない場合はこの練習です。GTECや従来のセンター試験はこの力をはかっています ②「精読」=構文や因果関係など意識しながら

読む・聞く × 速・精

読む方法です。特に国公立の二次試験にはこの力が必要です。また「速読」の基盤となる力でもあります。授業がこの点に焦点を当てている場合は、家庭で徹底的に予習をします。大切なのは自分の考えと授業内容を比較することです。週末課題『構文150』はこの力を育成することを目指しています。そしてリスニング。音声を取り入れ、③「速聴」と④「精聴」の練習をします。教科書のCDを聞き、内容をつかめば「速聴」の力を、聞きながら書きとりをすれば「精聴」の力を伸ばすことができます。授業もこの点を意識し立案されています。(水戸)